

6月25日 使徒言行録8章26～38節 今日の説教から

説教題：「素直に“分からない”と言う勇氣」

今日の個所には、そのように「屠り場に連れていかれる羊」という言葉が出てきています。エチオピアの宦官が読んでいた聖書、イザヤ書の言葉に次のような言葉がありました。「彼は、羊のように屠り場に引かれて行った。毛を刈る者の前で黙している小羊のように、／＼口を開かない。」これはイザヤ書53章の言葉であり、その「屠り場に連れて行かれる羊」とはイエス様のことを意味しています。ただ、まだイエス様のことを知らないこの宦官には、その事が分からなかったようです。

この宦官が、そもそもこのイザヤ書を読んでいたことは偶然なのでしょうか。おそらくはそうではないのだと思います。というのも、今日の個所で彼が引用したのがイザヤ書の53章で、その後の56章には「宦官への信仰の招き」が記された箇所があるのです。裏面の下段に記していますのでよかったですらお読みください

宦官は生殖能力を失った役人であるため、子孫を残すことができません。財産を得ても、名誉を得ても、それを残す相手がいませんでした。信仰という意味でも、神様が約束していた「土地」と「子孫」が、彼らにとって望むことができないものでありました。しかし、このイザヤ書には「宦官に対しての招きの言葉」が記されているのです。だからこそ、このエチオピア人の宦官は繰り返し繰り返しこのイザヤ書を読み、自分の信仰を深めていたのだと思います。この本を読めば、自分は救われる、救われるための知恵がここには書かれている、と縋りつくように、何度も繰り返し読んでいたのでしょう。

しかし、主の交わりに混ざることが許されなかった彼は障害のある人として礼拝から遠ざけられ、ユダヤ教のラビたちに聖書についての質問をすることもできなかったのです。信仰者であっても、汚れているとみなされて礼拝に参加できない人が大勢いました。ユダヤ教の、神殿と律法だけの信仰では、彼らに救いの言葉を届けることが出来なかったのです。

神様はこの宦官のためにフィリポを遣わせ、聖書の言葉を読み解かせ、彼を洗礼へと導いたのであります。ここで洗礼を受けたのは宦官一人だけであります。先々週の個所では集まった群衆に説教を行い、ペトロは3000人もの人々を信仰に導いた、そんな出来事が記されていきました。それとは対照的に、この一人のためにフィリポは遣わされたのです。もしかしたら、霊の言葉に従わずにエルサレムに行ったり、ガリラヤに行ったり、人が多いところに行けば必ずや何十人、何百人もの人々を洗礼に導くことができたことでしょうか。しかしそうではなかった、そうはしなかったのです。

そのように、救われるべき人がたった一人しかいなかったとしても、その導き手を差し伸べてくれることがここに示されているのです。効率の良しあしなどは全く気にせず、その一人のために神様はフィリポを遣わせてくれました。イエス様の、私たち一人一人と「共にいる」という業が確かに実現していく様子がここに示されているのです。

たった一人の迷える人に対しても手を差し伸べてくれる神様の慈しみ深さを胸に、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：使徒言行録 8 章 26～38 節

・26:さて、主の天使はフィリポに、「ここをたつて南に向かい、エルサレムからガザへ下る道に行け」と言った。そこは寂しい道である。フィリポはすぐ出かけて行った。折から、エチオピアの女王カンダケの高官で、女王の全財産の管理をしていたエチオピア人の宦官が、エルサレムに礼拝に来て、帰る途中であった。彼は、馬車に乗って預言者イザヤの書を朗読していた。すると、“霊”がフィリポに、「追いかけて、あの馬車と一緒にいけ」と言った。フィリポが走り寄ると、預言者イザヤの書を朗読しているのが聞こえたので、「読んでいることがお分かりになりますか」と言った。宦官は、「手引きしてくれる人がなければ、どうして分かりましょう」と言い、馬車に乗ってそばに座るようにフィリポに頼んだ。彼が朗読していた聖書の箇所はこれである。「彼は、羊のように屠り場に引かれて行った。毛を刈る者の前で黙している小羊のように、口を開かない。卑しめられて、その裁きも行われなかった。だれが、その子孫について語れるだろう。彼の命は地上から取り去られるからだ。」宦官はフィリポに言った。「どうぞ教えてください。預言者は、だれについてこう言っているのでしょうか。自分についてですか。だれかほかの人についてですか。」そこで、フィリポは口を開き、聖書のこの箇所から説きおこして、イエスについて福音を告げ知らせた。

・36:道を進んで行くうちに、彼らは水のある所に来た。宦官は言った。「ここに水があります。洗礼を受けるのに、何か妨げがあるでしょうか。」フィリポが、「真心から信じておられるなら、差し支えありません」と言うと、宦官は、「イエス・キリストは神の子であると信じます」と答えた。そして、車を止めさせた。フィリポと宦官は二人とも水の中に入って行き、フィリポは宦官に洗礼を授けた。

イザヤ書 56 章 3～8 節

・3:主のもとに集って来た異邦人は言うな／主は御自分の民とわたしを区別される、と。宦官も、言うな／見よ、わたしは枯れ木にすぎない、と。なぜなら、主はこう言われる／宦官が、わたしの安息日を常に守り／わたしの望むことを選び／わたしの契約を固く守るならわたしは彼らのために、とこしえの名を与え／息子、娘を持つにまさる記念の名を／わたしの家、わたしの城壁に刻む。その名は決して消し去られることがない。……追い散らされたイスラエルを集める方／主なる神は言われる／既に集められた者に、更に加えて集めよう、と。